



明けましておめでとうございます。新型ウィルスの世界的大流行に加えて経済的な問題や国際紛争など、私達の生活を脅かすものが多々ありますが、先人の歩みに学びながら何とかよりよい方向にいくようにしていきたいものです。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

街角今昔

デジタルアーカイブ整備へ

前号で市史史料・古文書のデジタル化についてお話ししましたが、その取り組みの一環で写真のデジタル化も行われています。市史編さん時に撮影・収集された写真は約1万3000点ありますが、撮影場所や撮影日を特定できないものも少なくありません。利便性のために、現在は町並み、橋などの写真の場所や撮影年代をできるだけ特定して地図上に落としこむ作業を始めています。この一部、往時と近時の写真を並べてご紹介します。(すでに越谷市HPに掲載してあるものもあります。市HP→子育て・学び→文化・スポーツ・生涯学習→越谷市デジタルアーカイブ(意見募集)→写真で見る越谷 でご覧いただけます。)



▲ 大沢橋近くの越ヶ谷本町付近
(南を臨む)

左は大正期の様子です。日光道中はまだ舗装されていない砂利道です。宿場町の面影が残っていました。

■ 大沢4丁目交差点
(足立越谷線)

市域で初めて“三色自動信号機”が設置された場所です。左は昭和30年代の様子です。高い建物がなく、樹木が多かったです。道路は舗装されていますが、白線はありません。



□ 184号国道(現足立越谷線)
(越ヶ谷3丁目)

左の写真中、大きな建物は昭和27年頃の町役場です。大きな荷物を沢山積んだ三輪自動車やボンネットトラックが、東京方面から北へ向かっています。

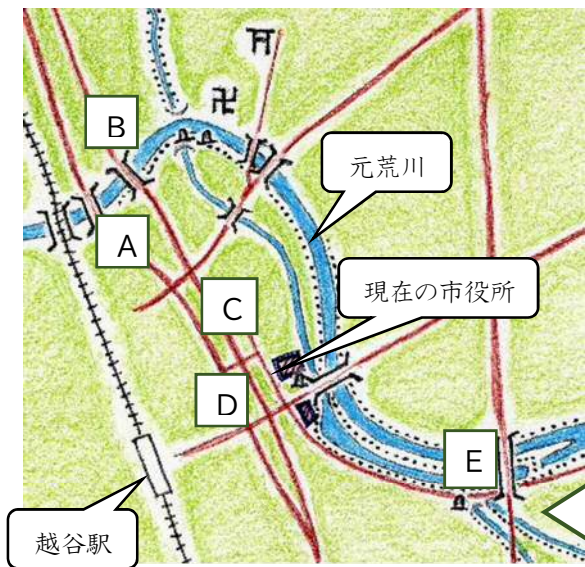


どんな音・声が聞こえますか？ どんな匂いを感じますか？

ここに掲載した写真のかつての風景をご存知の方は、当時の空気や季節の様子も思い出されることでしょうか。当時の流行歌や流行語などは現代とは異なっていたこともあります。あまり変わってないこともありますね。

しかし越谷も時代が進み変化もあって、かつての状況がわかりにくくなった点もあります。越谷市ではデジタルアーカイブの整備によって、往時の様子を伝えていきたいと考えています。

今号に掲載した写真の撮影場所



D 日光街道の六斎市

(越ヶ谷2丁目付近)

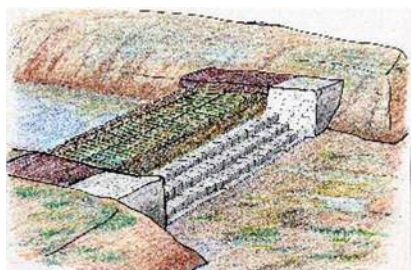
左側は昭和30年代の様子です。この辺りは以前は「新石町」と呼ばれました。オートバイにまたがる青年、当時はヘルメット不要でした。サングラスをかけています。若い人の中で「イカす!」「イカしてる!」(カッコいい)という流行語がありました。映画「太陽の季節」や「嵐を呼ぶ男」の影響もありました。



E 瓦葺根溜井の石堰跡

(しらこぼと橋付近)

17世紀に石組みの堰が建設され、大正期までは使われていました。その後堰は現在の位置に改築されましたが、石堰跡は第二次世界大戦後もしばらく痕跡が残っていました。



石堰想像図

他地域の石堰図面等を参考にして描かれたものです。石組みの上には土のど竹の束が置かれ、水位調節の際には取り払われました。

新旧の町並みから現在と将来を考える

町並みの今昔を比べてみることで、判ったり感じたりすることが様々あります。地域の変容(自然、産業など)、人々の服装や髪形、当時の音や匂い等々。そしてそれらを何度も見ていると、あたかも自分がその時のその場所にいるような錯覚をしてしまう方もおられるでしょう。その風景の時節の空気までも伝わってきます。それらは単に懐かしさや新たな知見としてだけでなく、人や社会の在り方にまで気持ちが及んでしまうこともあるかもしれません。それはまさに“温故知新”なのでしょう。